点字使用者のための 漢字学習プログラム及び教材の開発

(課題番号 16530634)

平成16年度～18年度

科学研究費補助金(基盤研究(C))

研究成果報告書

平成19年3月

研究代表者 澤田 真弓

(独立行政法人国立特殊教育総合研究所)

はじめに

点字を常用している児童生徒に対する漢字・漢語の指導の必要性は、大きく次の2点であるといえる。まず第1に、日本語が漢字の字義と強く結びついている言葉が多く、その正しい理解と表現のためには漢字の知識が必要不可欠であるという点、第2にコンピュータ等情報機器の普及により、普通の文字と点字や音声との相互変換がかなりスムーズにできるようになり、従来にも増して、同音異義語の理解を含めた漢字の知識が重要となってきたという点である。特にコンピュータ等情報機器の普及は、視覚に障害のある人たちにとって、さまざまな分野で自立の可能性を大きく広げるものとなり、これらを駆使する力が要求されてきている。具体的には、点字や音声によって提示された言葉を漢字仮名交じり文に変換する際に、どの部分が漢字であり、どの部分が仮名なのかを区別する力、また複数の漢字の中から、その文章にあった漢字を同定する力等が必要とされる。これらの力を身に付けるには、漢字の音（読み方）と意味との対応の習得が要求される。

漢字の数は非常に多く、日常的に漢字に触れる機会の少ない点字使用児童生徒に、どこまでの漢字力を要求するかは議論の分かれるところであるが、どの程度の数の漢字を指導しなければならないかという点も含めて、効果的な漢字指導の在り方を探ることは重要であると考えられる。

そこで本研究では、点字を常用している児童生徒が、効率よく漢字の力を身に付けるための指導法を探り、そこから「点字使用者のための漢字学習プログラム」とその教材の開発を試みた。まだまだ試行の段階ではあるが、各所で使用して頂き、検証を重ね、今後さらに修正を加えていきたいと考える。本研究の成果が、点字使用児童生徒の漢字習得の一助となれば幸いである。

平成19年3月

独立行政法人国立特殊教育総合研究所

研究代表者 澤田真弓

目 次

研究組織及び経費

研究成果の発表

第1章 研究の概要

第1節 研究の背景 ----- 1

第2節 本研究の目的及び構成 ----- 2

第2章 点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材について

第1節 「点字使用者のための漢字学習プログラム」及び
教材開発にあたっての考え方 ----- 3

第2節 「点字使用者のための漢字学習プログラム」 ----- 8

第3章 盲学校小学部での漢字指導状況について

第1節 盲学校小学部国語点字教科書での漢字の扱い ----- 75

第2節 点字使用児童への漢字指導に関する調査 ----- 77

第4章 プログラム及び教材を活用した実践事例 ----- 99

第5章 総合考察及び今後の課題 ----- 127

引用・参考文献 ----- 129

資料

1. 「点字使用者のための漢字学習プログラム」漢字一覧表（使用頻度順） ----- 131

2. 小学部国語原典教科書と点字教科書編集資料（漢字を扱った単元） ----- 178

3. 点字使用児童への漢字指導に関する調査用紙 ----- 247

4. 第44回日本特殊教育学会発表レジュメ ----- 266
「点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発
一点字使用児童を対象とした漢字指導状況調査から」

5. 参考教材「漢字カルタ」 ----- 267

研究組織

研究代表者

澤田真弓 独立行政法人国立特殊教育総合研究所教育支援研究部総括研究員

研究協力者

吉田道広 熊本県教育委員会指導主事

森崎洋子 熊本県立盲学校教諭

研究経費

平成16年度	1,800 千円
平成17年度	1,000 千円
平成18年度	900 千円
合 計	3,700 千円

研究成果の発表

- (1) 澤田真弓 吉田道広 森崎洋子：点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発
一点字使用児童を対象とした漢字指導状況調査から一，第44回日本特殊教育学会発表論文
集，P642，2006.